



世界に希望を生み出そう

2023~2024 年度
国際ロータリーのテーマ

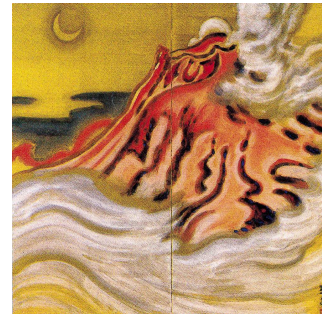
Weekly Report

小諸浅間ロータリークラブ

◆例会日/週木曜日 12:30~13:30 ◆例会場/小諸市鶴巻 音羽
◆事務局/〒384-0025 長野県小諸市相生町 1-2-12 エイワンビル 3 階

◆会長 / 鴨下 直哉 ◆副会長 / 青松 英和
◆幹事 / 両川 博之 ◆広報・情報委員長 / 小山 等

NO. 1603 令和6年4月11日



◆点鐘	鴨下 直哉 会長
◆SAA	倉本 泰志 委員
◆ソング	奉仕の理想
◆ビジター	山岸 喜昭様(小諸 RC)
	小林 潤 様(小諸 RC)
◆ゲスト	元小諸市教育長 柳沢 恵二 様

【会長挨拶】鴨下 直哉 会長

木村 熊二(きむら くまじ、弘化 2 年 1 月 25 日<1845 年 3 月 3 日> - 1927 年<昭和 2 年>2 月 28 日)は、日本の牧師・教育者。名は熊治とも表記。日本の天気予報の創始者とされる桜井勉は実兄。

明治期、妻の木村鏡子とともに東京に明治女学校を創設、その後移った長野県小諸にて小諸義塾を開設した。牧師として島崎藤村に洗礼を施したことで知られ、のちに藤村を小諸義塾の教師に招いた。

1891 年(明治 24 年)、木村は高輪台教会の牧師を辞職。翌 1892 年(明治 25 年)、自由民権家の早川権弥の導きで伝道のために長野県南佐久郡野沢村(現在の佐久市)に移住する。1893 年(明治 26 年)、小諸で私塾として小諸義塾を創設し、青年教育にあたった。1899 年(明治 32 年)に小諸義塾は旧制中学校として認可を受け、島崎藤村、丸山晚霞等が木村に招かれて教師として勤務した。

木村は小諸で桃や苺の栽培を推奨した他、中棚の湧き水を使うと傷の治りが早いのに気づき、中棚鉱泉の発掘にあたり、その近くに書齋として「水明楼」を移築した(島崎藤村の「千曲川のスケッチ」にも登場する水明楼は現存している)。

なお、1896 年(明治 29 年)に木村は三人目の妻として 27 歳下の東儀隆子(雅楽家の東儀家出身)を迎えた。地元民に受け入れられなかったこともあり、小諸義塾は 1906 年(明治 39 年)に財政難などによって閉校を余儀なくされた。

晩年

小諸義塾閉校後、木村は長野市に移住し、牧師として活動した。1917 年(大正 6 年)に東京へ戻り、1927 年(昭和 2 年)に芝区白金三光町にて 83 歳で没し、谷中墓地に葬られた。木村の命日は、「蓮峰忌」の名で供養が行われている。小諸市では毎年水明楼近くの中棚温泉中棚荘で行われている。1936 年(昭和 11 年)に小諸義塾時代の教え子らが中心となり、木村の記念碑を小諸城

址懐古園に建設した。懐古園二の門跡付近の石垣に、木村の肖像のレリーフ(その下には、島崎藤村が揮毫した「われらの父木村熊二先生と旧小諸義塾の記念に」と刻まれている)が埋めこまれている。

家族

実父・桜井一太郎 - 出石藩主に仕えた儒学者

養父・木村琶山 - 一太郎の弟子

妻・田口鏡子(1848-1886) - 佐藤一斎の曾孫、田口卯吉の異父姉。長男誕生後熊二が単身渡りしたため 13 年間別居、夫婦国後 3 年で病死。

妻・伊東華子 - 1886 年に結婚、1896 年に離婚。島崎藤村の『旧主人』に登場するお綾のモデルと言われ、同作に描かれたような事件(若い歯科医との姦通)が離婚の原因だったと伝えられている。

妻・東儀隆子 - 東儀鉄笛の妹(従妹とも)。フェリス和英女学校出身。1896 年に 25 歳で 52 歳の熊二と結婚。小諸義塾女子学習舎経営し、四男四女を儲けた。

長男・木村祐吉(1867-1899) 鏡子との子。明治女学院教諭。怪我をきっかけに痛み止めのモルヒネの中毒となり、手あたり次第に借金を重ね、熊二を悩ませた。

次男・木村信児 - 隆子との子

【幹事報告】両川 博之 幹事

1. 東信第一グループ羽毛田匡ガバナー補佐、東信第二グループ西入悦雄ガバナー補佐より IM 会員セミナーDVD・フォトブック
2. 折井正明ガバナーより 2024-2025 年度のための「地区研修・協議会」の御礼
3. 折井正明ガバナーより「台湾東部地震」義捐金の対応について
 - ・地区内クラブからの義捐金は一旦地区でとりまとめてガバナー会口座を通じて拠出する
 - ・各クラブからの拠出額については特に基準を設けず各クラブの判断に任せる
4. 折井正明ガバナーより米山奨学生の交流クラブお引き受けについてのお願い

氏名:金 セハ(キム セハ)さん 男性

国籍:韓国

所属大学:信州大学 機械・ロボット学部3年

世話クラブ:上田 RC

奨学残期間:2年

一般社団法人小諸青年会議所より認承60周年

記念式典・祝賀会の案内

「式典」

日時:2024年6月2日(日) 15:00~16:40

場所:小諸文化センター

「祝賀会」

日時:2024年6月2日(日) 18:00~20:00

場所:ベルウィン小諸 3階 虹のホール

会費:12,000円

【本日の配布物】 週報第1602号、会員情報登録の確認

希望確認アンケート、請求書見本

預金口座振替申込書

◆出席報告 橋詰 希望 委員長

会員数 19名 出席義務者 18名 免除者 1名

本日 出席 13名

事前 MU 0名 72. 22%

前々回(3/28) MU 0名 83. 33%

◆ラッキー賞

No.15 矢島 栄一 会員

◆ニコボックス 黒澤 明男 委員

山岸喜昭君 (小諸 RC)	長野県議会第98代議長就任いたしました。長野県、小諸市の為頑張ってくださいるので宜しくお願いします。
小林 潤君 (小諸 RC)	請求書の説明の時間をいただき、ありがとうございました。
鴨下直哉君	今後共よろしくお祈いします。
両川博之君	柳沢さん卓話よろしくお祈いします。地区の会費について半期 1,200 円全期 2,400 円の値上げになります。
黒澤明男君	お役目です。
小池平一郎君	柳沢先生ようこそ。山岸県議おめでとうございます。日曜日の研修会、委員会に参加しました。参加の方ご苦労様でした！
望月 完 君	阪神タイガーズ調子が戻ってきました。今年も ARE に期待します。

小山 等 君	先週入学式、来週は山の関係でお休みします。よろしくお祈いします。
倉本浩行君	柳沢さんようこそ。今日はお祈いします。
橋詰希望君	柳沢恵二さん本日はありがとうございます。山岸議長、おめでとございます。
矢島栄一君	ラッキー賞を久しぶりにいただきました。卓話講師の柳沢先生、今日はよろしくお祈いします。
前田博志君	今日はありがとう。
加藤 輝男君	柳沢様、山岸県議、ご苦労様です。やっと小諸市長選も終わり、小諸市がさらに発展する事に期待致します。又、大谷選手の野球賭博、完全潔白だそうです。これから大いに試合で頑張ってくださいと思います。

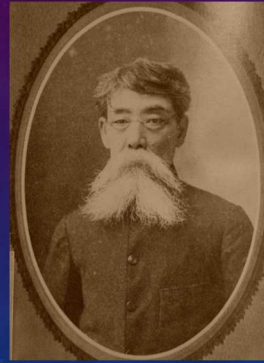
◆ 【本日のプログラム】 卓話 「木村熊二と小諸」 元小諸市教育長 柳沢 恵二 様





小諸城
二の門跡
レリーフ

1 蓮峰木村熊二 先生のこと



弘化2年1月25日
(1845. 3. 3)
～昭和2年2月28日

幕臣時代

- ・弘化2(1845)年
但馬出石藩の儒臣桜井石門(一太郎)の次男として京都に生まれる
- ・兄桜井勉(熊一)は、日本の天気予報の創始者
- ・5歳の時出石に戻る
- ・9歳の時、石門の高弟昌平覺都講木村琶山の養子となる
- ・幕府の学問所昌平覺に学ぶ 儒官佐藤一斎
- ・幕末には御家人として各種戦役に出陣
- ・21歳の時、田口鏡(佐藤一斎の曾孫)と結婚(弟卯吉)
- ・明治維新後は、静岡にて隠遁生活を送る

アメリカ留学時代

- ・1870(明治3)年、外山正一に誘われ少弁務使森有礼の一行に留学生として加わり渡米
- ・西海岸から大陸横断鉄道でニューヨークへ
- ・N.Y.でHope Collegeのフェルプス学長と出会う
- ・1871年～1879年
大儀見元一郎と共にHope Collegeで学ぶ
(グラマースクールから)
- ・1879年～1882年
大儀見元一郎と共にニューブランズウィック神学校
(New Brunswick Theological Seminary)
に学ぶ。マスターオブアーツ、牧師の資格取得

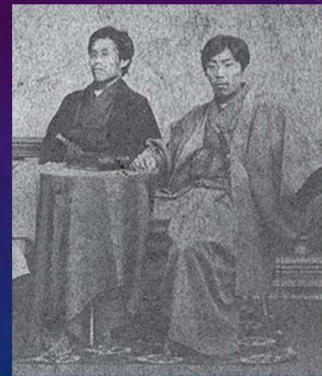
外山正一 米国公使館書記に任ぜられる



外山
捨八

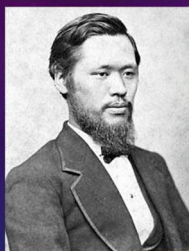
後の東大総長
文部大臣

大儀見元一郎 木村熊二



旗本
戊辰戦争で戦い
その後静岡に移住

森 有礼



外交官
初代文部大臣

勝海舟



外務大丞
兵部大丞

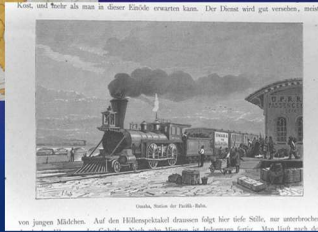
(1) 横浜 ～ ハーランド(HOLLAND)

- 1) 1870(明治3)年12月3日 横浜出港
太平洋横断定期船
アメリカ船 グレート・リパブリック号
・森辨務公使一行37名
外山正一
小崎弘道
神田乃武も同船



アメリカ大陸横断鉄道

1871(明治4)年1月1日 サンフランシスコ発
「火輪車にて路の程三千里を通行」



(2)1月8日ニューヨーク着 苦悩

・ワシントンへ行く外山正一と別れる

・勝小鹿、目賀田種太郎、福地源一郎と共に留学先を探す



勝 小鹿
ラットガース大学



目賀田種太郎
ハーバード大学



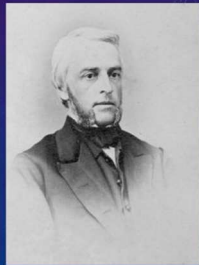
福地源一郎
大蔵省 会計法調査

(3)トクトル・ヘルプスとの出会い

- ・1871年1月22日 トクトル・ヘルプスと面会
- ・木村と大儀見が互いの希望を述べ、ヘルプスもカになりたい。
ハーランドのホープ・カレッジで学ぶことが決まる

○フィリップ・フェリップス

- 1826年～1896年 教育者、牧師
- ・Albany出身
- ・ユニオン・カレッジ
- ・ニューブランズウィック神学校卒業
- ・ホープ・カレッジ学長
- ・1884年引退して故郷に帰る



DR.PHELPS'S FAMILY



(4)アメリカ での学び

- 1871年 グラマースクールから
津川良蔵、大儀見元一郎、木村熊二
- 1872年 ホープチャーチにて洗礼を受ける
- 1875年 ホープカレッジ入学を認められる
- フェルプス夫人からの教え
- 1879年6月 ホープカレッジ卒業
- 1879年9月 ニューブランズウィック神学校入学
ニューヨーク大学でも聴講
- 1882年5月 ニューブランズウィック神学校卒業
8月 「マスターオブアーツ」、神学士の資格を
得て帰国

(5) 帰国(明治15年)

伝道者として

- ・ 下谷教会牧師
- ・ 基督教青年会(YMCA)の育成につとめる
川上村出身事業家 上田龍雄と知り合う
- ・ 旧約聖書の翻訳に携わる
- ・ 高輪台町教会牧師
- ・ 島崎春樹、関友三らを洗礼する
- ・ 佐久講義所、岩村田講義所、小諸講義所
- ・ 長野講義所(長野伝道教会)牧師
- ・ 牛込教会

(6)教育者として

- ・ 下谷初音町に家塾を開く
- ・ 明治女学校設立
- ・ 学習院、高等商学校、共立学舎、成立学舎
明治学院
- ・ 頌栄女学校校長
- ・ 小諸義塾設立
- ・ フェリス和英女学校

明治女学校

九段下⇒麴町⇒巢鴨



2 小諸義塾

小諸義塾



小諸義塾設立の経緯

- 明治25年 1月 木村熊二伝導のため佐久へ移住する。
- 11月 小山太郎始め8人の懇請に応え小諸義塾開校する。
- 27年 5月 大手門校舎に小諸図書館を開く。
- 29年 8月 洋風2階建て塾舎落成(耳取町)。
- 31年 7月 平屋塾舎が増築される。
- 32年 2月 長野県より認可が下り、3年制の中等学校となる。
塾主・井出静(漢文・習字)、校長・木村熊二(修身)、教員・鮫島晋(数学・物理・化学)、成瀬熊之助(事務)
- 32年 4月 島崎春樹(国語・英語)、大井小太郎(体操)、三宅克己(図画)
- 34年 4月 土屋七郎(博物学) 女子学習舎併設
- 35年 4月 丸山健作(晩霞)(図画)
- 36年 5月 創立10周年記念祭
- 38年 3月 女子学習舎閉鎖
- 39年 3月 小諸義塾閉校

家塾時代の教育主眼

- ・高等小学校卒業者の青年教育のための私塾
- ・自学自習
- ・人物の養成
- ・学科においては実力養成主義
(学ばんとする意志のある者に対し、入学試験の準備もしてやるが、その者の性質によっては学者としても養成するとの幅の広いものである)
- ・個性尊重の英才教育
- ・自由主義・生徒の自主性を重視
- ・学校でのキリスト教の布教はご法度

私立小諸義塾(1893~1906)



小諸義塾の教育活動

- ・ 弁論部 塾生相互に演説して批評しあう。
- ・ 小諸図書館 会員会費制で徴収瓦門楼上。
- ・ 撃剣部 現在の剣道部
- ・ 修学旅行 生徒が主として計画し、塾長の承認をえて実行
・ 内山峠～下仁田泊～妙義山～横川～碓氷峠～帰校
・ 小諸～海ノ口泊～野辺山～甲府泊～富士見～上諏訪泊
～和田峠～大屋～小諸帰着
- ・ 信濃青年団小諸支部 代表を送り雄弁を競う
- ・ 「千曲川のスケッチ」ほか、藤村の作品に授業や教師の様子などが描かれている。 テニス・弓道

自由な教師たち

- ・ 木村熊二 マスター・オブ・アーツ 修身、英語
 - ・ 井出 静 退役憲兵大尉 漢文、習字
 - ・ 鮫島 晋 東大仏語物理学科卒理学士 物理・化学・数学
 - ・ 島崎春樹 詩人 国語・英語
 - ・ 渡辺 寿 地理・歴史
 - ・ 三宅克己 米英仏に遊学 図画
 - ・ 丸山健作(晩霞) 欧米に遊学 図画
 - ・ 大井小太郎 軍人(上等兵?、軍曹?) 体操
- ・ 職員会がほとんどなかった。教師の自主性に任せる。

自由教育

- ①自由な人格の主体の形成、そのための人間的諸能力の調和的形を目的とする教育。職業・生活のための教育でなく、人間としての知性・教養の啓培・向上を目的とする。
- ②被教育者の天賦の資質・個性を重んじ、自発的活動を主とする新教育の主張。(広辞苑)

- ・ いま、小諸義塾のような教育がなされたら、校内暴力、不登校、いじめ……もなく、きっと教育界が変わっていただろう……。

小諸義塾について…(武重薫)

「小諸義塾は明治26年に創立し、明治39年の3月に廃校となった。十有三年間塾生となった人は千余人になり、明治二十年三十年時代であるからまだ高等教育を受けるという気運に向いていなかったが、尚この義塾出身者が、帝大に進み理学士となり、文学士となり、医学士となり、或は高等商業、高等工業、又は早稲田、慶応と進んだ人が沢山いる。博士の学位を得たる者、軍人に大佐あり中佐あり、俳人として大家となつた者、画家として重きを為せる人、代議士として活躍せる人、銀行会社に各方面にわたって人材を出している。最も著しく目立つのは教育者が多い事である。これは当時の師範学校が小学校を出た計りでは入学が困難であつたので、小諸義塾に一、二年の過程を修めて入学した為であつたと思う。これ等の人は今や小学校の校長として重きを為して居る。

小県郡滋野村の如きは村長、消防組長、組合長、村会議員の大半がこの義塾出身者を以て占めて居る。」

2 物理教育に一生を捧げた 理学士 鮫島 晋 先生



「千曲川のスケッチ・古城の初夏」
「破戒」の風間敬之進と重なる
「貧しき理学士」
「古い洋服、下駄穿き、内股に歩く先生だった。スミスの代数学を教えるのだったが、黒板一杯に書く方程式を手で消しても意に介せぬという無頓着なところがあった。帝大物理科の卒業で同志と東京物理学校を建てたり、新潟県で中学校長を勤めたりした。小諸へ来た時は、これだけの経歴の持主とは思えぬ生活であった。」

藤村を送る(明治38年2月 懐古園天主台)



小諸義塾の閉鎖の要因 (小山太郎)

- ・ 経営難
- ・ 町費補助をうけ、私塾の本旨を失う
- ・ キリスト教学校と誤認される
- ・ 町会議員の教育に無知なること
- ・ 女子学習舎を併設したこと
- ・ 役場吏員の多数が存続に反対
- ・ 乙種実業学校設立の社会情勢
- ・ かくして、明治39年3月小諸義塾閉鎖
⇒木村熊二は、長野へ

小諸義塾 最後の記念写真(明治39年3月)



佐藤寛太郎



伴野文太郎

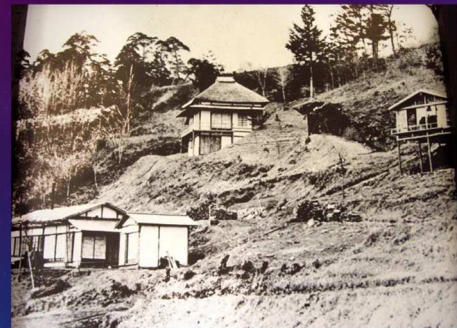


伊藤長七(寒水)



保科 百助(五無齋)

岸近き宿？



開業当時の中棚 鉢泉 水明楼

ご清聴有り難うございました

- ・ いま、小諸義塾のような教育がなされたら、
校内暴力、不登校、いじめ……もなく、
きっと教育界が変わっていたらう……。



次週のプログラム: 4月18日 卓話(立松 みずき氏)
次々週のプログラム: 4月25日 定款による休会